

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ソルガムコンソーシアム事業 (その2)
事業主体 (連絡先)	信州そるがむで地域を元気にする会 (長野市若里 4-17-1)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (イ 農業の振興と農山村づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,762,721 円 (うち支援金: 1,320,000 円)

#### 事業内容

我々の事業は、ソルガムを軸としたカスケード型脱炭素社会の実現に向けて①事業認知度向上活動および「ソルガム」の6次産業化に向けた取組を実施した。

- (1). 農福検討／意見交換 (年のべ6回)
- (2). 栽培講習会 (2回)
- (3). 商品化検討  
ワークショップを3回開催
- (4). 展示会出展
- (5). 成果報告会&そるがむマルシェの実施  
延べ14万世帯への広告宣伝活動の実施  
ソルガムを見て、食べて、購入する会の開催



【そるがむマルシェ会場の様子】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①事業認知度向上  
購買層(生産年齢人口)において、1年前と比較してソルガム認知度は10%向上し、ソルガムの食経験者は倍増した。また長野市内在住者の食経験者は、食に関する事業者に比べ5倍に達した。
- ②「ソルガム」の6次産業化  
社会福祉事業所を中心に10品目以上のソルガム商品が自主開発された。展示・即売会を実施したところ、1施設あたり3時間で2万円以上の売り上げを実現。今後継続して販売した場合5施設で1000万円/年～2000万円/年程度の売り上げが見込まれる。

- ①購買層(生産年齢人口)を中心とした事業認知度向上
- ②「ソルガム」の6次産業化を目指した商品開発とプレマーケ実施

#### 【目標・ねらい】

※自己評価【 A 】

【理由】「ソルガムマルシェ」が予測の4倍を上回る盛況ぶりを見せ「ソルガム」の認知度と社会受容性の高さが示せた。県内他エリアや中央省庁からも声がけされ地域を超えて活動が認知されている。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

ソルガムを軸としたカスケード型脱炭素社会の実現のため引き続き以下の事業を実行する。

- ①.成功モデルの拡充：社会福祉事業所によるソルガム作付けと6次産業化は成功モデルとして伴走を継続実施する。
- ②.子実流通量の拡大：長野地域はソルガムに対する社会受容性が高いが、食経験者割合が低い。入手性の悪さに起因するため、作付け面積の拡大とともに、販売強化活動を推進する。
- ③.事業認知度の向上：栽培講習会、展示会、料理教室など地域と連携した活動は継続実施する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	りんご栽培技術継承動画制作事業		
事業主体 (連絡先)	高山村産業振興課農政係 電話番号：026-214-9268		
事業区分	産業振興、雇用拡大		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	4,270,000	円 (うち支援金：)	3,416,000 円)

#### 事業内容

##### 【実施時期・内容】

- 1、4月～2月 栽培技術撮影・編集(摘花、摘果、夏季管理、病虫害防除、収穫等)を行う。
- 2、12月～3月 村HP掲載とは別途に動画閲覧サイト構築(掲示板機能による情報交換や質疑応答を可能にし、農家技術・知識の更なる向上を図る。



【撮影の様子】

##### 【目標・ねらい】

- ①担い手育成・確保
- ②栽培技術の継承と産地の維持

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

近々に数値を算出することが困難であるが、技術の継承と高山村の果樹産地の維持に繋げることができた。

- 1、閲覧サイト登録者人数 1人
- 2、村内農業者にDVDを配布する。

##### ※自己評価【B】

##### 【理由】

技術継承動画を制作することにより、村の産地の維持また、担い手の確保の一つの方法として今後活かせる動画を作成できた。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後は、村の会議の場や移住相談会などでDVDの周知を行い、少しでも農業について興味を持ってもらい、村の担い手の育成・確保や高い評価を得ている村の果樹産地の維持に活用していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	伝統野菜による地域振興事業
事業主体 (連絡先)	信濃町 (担当：信濃町役場産業観光課 電話 026-255-3113)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大／(1)地域協働の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	423,253円 (うち支援金：317,000円)

#### 事業内容

信濃町には「信州の伝統野菜」に4品種(ぼたごしょう、黒姫もちもろこし、からごしょう、冬ささぎ)が認定されている。

古くから地域住民が気候風土に沿った食文化と共に育んできた伝統野菜の文化的価値を見つめ直し、次世代に継承するため、伝統野菜の認知と農や食文化への理解と関心を深める取組を実施した。

- ・「よみがえりのレシピ」上映会、栽培講習会、苗種の配付 (6/18(土)87名参加)
- ・畑見学会、種採り教室 (8/27(土)18名参加)
- ・こしょう漬け料理教室 (8/27(土)27名参加、11/26(土)23名参加)
- ・山形県鶴岡市越沢地区との交流会 (11/20(日)33名参加)



【栽培ほ場見学・種採り教室】

#### 【目標・ねらい】

- ①生産者数の増加
- ②お試し家庭栽培者
- ③栽培を継承するための資料作成

#### 事業効果

- ①道の駅直売所において伝統野菜を出荷する生産者が40名から48名に増加した。  
また、他地域の事例を学ぶことで、生産者自身も伝統野菜の文化的価値を再認識し、今後の取組の刺激となった。
- ②100名以上に伝統野菜の種や苗を配付し、家庭栽培や料理教室等を通して伝統野菜の理解と関心を深め、活用を図るきっかけとなった。
- ③生産者にヒアリングをしながら、先代の方々から受け継がれてきた栽培方法や活用レシピ等の資料を作成・配付したことで、伝統野菜や食文化の継承につながった。

#### ※自己評価【A】

##### 【理由】

道の駅直売所において伝統野菜の出荷者が20%増加した。  
6月上映会の参加者の8割は伝統野菜を知らず、年間のイベントを通して地域内における認知度が向上した。

#### 今後の取り組み

- 伝統野菜や食文化の継承をするため、関係団体の協力を得ながら、栽培指導や郷土料理の講習会等を継続したい。
- 伝統野菜を地域資源として位置付け、地域経済の活性化につなげることとして、生産量の拡大を図り、観光・飲食業等と連携し利用拡大を図りたい。
- 今回のイベントを通して、まだ信州の伝統野菜に認定を受けていない野菜が発見された。5品種目の登録に向けて調査し、新たな地域資源として活用を図りたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある